

# 日税メールステーション 特別号

## 海外基本情報

### 第41回 タイ特別編（1）

メールマガジンをお読みの皆様こんにちは、株式会社コアブリッジの柳です。

今号は特別編として、3月24日(日)に総選挙が行われたタイについてお伝えします。

2014年のクーデター以来何度も先延ばしされてきた総選挙の実施は、2011年以来実に8年ぶり(\*1)です。

#### ■タイの選挙情勢

タイは「都市部の富裕層・特権階級」と「農村部の低所得層」とに二極化しています。特に昨今はその差が甚だしくなっていて、「世界一格差が大きい」という調査結果もあります(\*2)

施政者や役人が自らの既得権益を守ろうとするのか、多数の非富裕層の支持を集めるのか、により政策も選挙戦略も変わってきます。

今回の選挙に限らず、2001年以降の選挙戦は、都市部の中級階級以上を支持層にした政党と、農村部の低所得層を支持層にした政党の争いの構図になっています。

そして、後者の政策を前面に出し、農村部の支持基盤を形成して選挙に勝ち続けてきたのが、2001-2006年に首相を務めた“タクシン・チラワット”です(敬称略、以下同)。現在は国外逃亡中ですが、今もなおタイの政界に大きな影響力を持ちます。

現軍政にとって「タクシン派勢力をいかに減衰させるか」が重大事で、言うならば、クーデターの発端も、政権を握ってからの行動も、憲法改正も、それに起因しています。

#### ■総選挙 2019 の特徴

タイの国会は、下院(人民代表院)と上院(元老院)の二院制で、定員は下院：500、上院：250です。

軍政は、軍政を支持する親軍政政党(具体的には「国民国家の力党」)を結党して、民主政党(非軍政政党。反軍政の党もあれば親軍政の党もある。「民主党」のことではない)と議席を争います。

軍政により憲法や選挙関連法に改定がなされていて(選挙にめっぽう強い“タクシン派”勢力に不利に働くよう意図されている)、以下の制度の下で実施されています。

- ・総選挙の対象は下院のみ

- ・ 上院は軍政が事実上任命する（タクシン派は入りようがない）
- ・ 下院 500 議席を、小選挙区 350、比例区 150 に分ける
- ・ 有権者が投じるのは小選挙区の一票のみで、その票が比例区の票も兼ねる
- ・ 党ごとの得票率に応じて当選数が決まり、選挙区の議席数が多いと比例の議席数が少なくなる仕組み（特定の党が大勝ちできない）
- ・ 各党は首相候補を立てる（首相候補が党首とは限らない）
- ・ 首相指名は上院 250 も合わせた 750 人で行う
- ・ 首相指名のためには、

親軍政側 : 下院+上院の 750 の過半数である 375 から上院の 250 を引いた数を超えた数、すなわち 126 議席以上必要

タクシン派 : 下院+上院の 750 の過半数である 376 議席以上必要

親軍政側は、下院+上院で過半数をとって首相指名ができて、下院で過半数をとらないと予算や法案が通りません。

逆に、タクシン派としては、首相指名が通らなかったとしても、下院の過半数は死守したい。

結果として、両陣営共、連立による数合わせを余儀なくされています。



街中の通り沿いに立て掛けられている選挙の看板

## ■ 暫定結果

正確な結果が出るのは5月9日とだいぶ先(5/4-6に行われる国王の戴冠式への配慮)ですが、3月28日に選挙管理委員会から以下のような発表がされています。

- ・ 投票者数 : 3826 万 8375 人、投票率 : 74.69%

- ・有効票：92.85%、無効票：5.57%、白票：1.58%
  - ・各党の得票（多い順）
    1. 国民国家の力党（親軍政。現暫定首相のプラユットを首相候補としている）
    2. タイ貢献党（タクシン派。反軍政。元保健相のスダラットを首相候補としている）
    3. 新未来党（反軍政。リベラル系新党）
    4. 民主党（反タクシン。党首のアピシット元首相は惨敗により辞任を表明）
    5. タイの誇り党（キャスティングボート(Casting Vote)となりうる）
- ※6位以下は省略

結果として、親軍政政党が予想以上に票を獲得し、逆にタクシン派が伸びませんでした。いずれの政党も過半数は取れず、連立の工作に入っています。

親軍政の「国民国家の力党」が、比例区もあわせると126議席以上獲得すると予想されており、プラユットが首相を続投する見込みです。

タクシン派勢力は七つの党で連立を組み、下院の過半数に達したと表明しています。プラユットが議員指名する上院に対して、下院は反プラユット派が過半数となる、いわゆる「ねじれ」状態となり、議会運営は混乱が続くと見られます。

## ■現地の様子

軍による物々しい厳戒態勢の下で投票が行われるのかと思いきや、いたって静かな投票となりました。学校等の公共施設が投票所となり、8:00から17:00まで有権者が投票をしていました。日差しの強い暑い日で、私が覗いたバンコクの投票所二箇所は、真昼には投票者が皆無で閑散とし、のんびりした雰囲気でした。

選挙の暫定結果を見るに、これまでのようなタクシン派の圧勝はなくなり、クーデター後の軍政に対する一定の評価と期待が持たれていることがうかがえます。タイ国民には「もう混乱はこりごり」という声が多くあるようです。



投票所。左は私立学校、右は百貨店横の特設投票所。軍の警備が物々しいのかと思いきや、そんなことはありませんでした。

(\*1)

前インラック首相が2013年12月に下院を解散して2014年2月に総選挙が実施されてはいるのですが、当時の野党が選挙をボイコットしたり、大規模デモによる選挙の妨害があり、憲法裁判所が「無効」の判決をくだしています。

(\*2)

クレディ・スイスの『Global Wealth Report 2018』より。

<<https://www.credit-suisse.com/corporate/en/research/research-institute/global-wealth-report.html>>

これによると、タイの上位1%の富裕層が富を占有している割合は66.9%、上位5%になると79.9%になります。なお、二位はロシア、三位はトルコで、日本はデータのある40カ国中で下から二番目です。

しかも、軍政が始まった2014年時と比較すると、二位のロシアは占有率が減っているのに対し、タイは著しく専有率が増えています。

#### 2018年調査結果：富裕層が富を占有している割合（括弧内は2014年の値）

	国	上位1%の富裕層の専有率	上位5%の富裕層の専有率
一位	タイ	66.9% (50.5%)	79.9% (66.9%)
二位	ロシア	57.1% (66.2%)	73.7% (79.1%)
三位	トルコ	54.4% (データなし)	72.3% (データなし)
参考	日本	18.6% (17.9%)	36.6% (36.0%)

今号は以上で終了です。

次号もタイの特別編を予定しています。

ではまた次回お会いしましょう。

※本文中の数値やURL等は執筆当時のものです

#### **執筆者**

柳 恵太 (やなぎ けいた)

株式会社コアブリッジ代表取締役。

ソフトウェア開発会社、メーカー、教育ベンダーを経て、2014年に株式会社コアブリッジを設立。これまでの、システム開発の上流から下流、受託側から発注側、エンジニアからプロジェクトマネージャー、ユーザーと開発者、企画・営業・開発・提供、日本と海外、社員から経営者といった、組織における幅広い役割を活かし、主にIT企業向けの人材育成やコンサルティング等のサービスを提供している。

情報提供元：



株式会社コアブリッジ

<https://www.corebridge.co.jp/>

※本コラムは、<https://www.corebridge.co.jp/column.html> でもご覧になれます。